

「 困難の先で 」 一使徒行伝講解説教 18-

イザヤ書 55章 8節～9節
使徒行伝 8章 1節～25節

説 教 本庄侑子牧師

ステパノの殉教をきっかけにして教会に大迫害が起こりました。人々はユダヤとサマリヤの地方に散らされていきました。教会にとって大きな打撃でした。しかし、「散らされて行った人たちは、御言を宣べ伝えながら、めぐり歩いた。」(4節)彼らは願ってもいない困難によって仕方なく「散らされ」ました。しかし、困難の先で「御言葉を宣べ伝えながら、巡り歩いた」のです。

聖霊は彼らの目に、困難の中にもあるイエス・キリストの御支配を見せていました。この出来事も神の御手の外にあるのではないと確信させていたのです。困難の中にも必ず神の御計画があるはずだ。彼らはそう信じて、なすべきことをしていきました。

彼らが散らされたのはユダヤとサマリヤでした。イエス様は天にあげられる前、おっしゃいました。「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。(使徒行伝1章8節)

神の計画の中には、初めからユダヤとサマリヤが視野にありました。しかし、イエス様にそう言われても、エルサレム教会の意識の中にサマリヤは入っていませんでした。ユダヤ人とサマリヤ人との間には大きな壁があったからです。

しかし、神は迫害という困難を通して彼らを押し出されました。私たちが経験する困難な出来事は、いつでも一つの過程です。結論ではない。そこには神の目的があります。神の思いは、私たちの思いをはるかに超えています。困難の中で嘆くしかない弱い私たちに聖霊は豊かに働いてくださり、困難の先で御言葉を宣べ伝えるために巡り歩く者にしてくださいます。

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」(コリント人への第二の手紙4章17節)この言葉を語ったパウロもあらゆる困難に直面しました。自分の死を何度も覚悟したはずです。しかし、それらをもってしても、「しばらくの軽い患難」と言わしめてしまうほどに永遠の重い栄光が、あふれるばかりに与えられる日を望み見ていたのです。

パウロは言います。「患難は働いて」。わたしたちがこの地上で経験するあらゆる困難、患難

は働くのです。英語ではプロデュースという言葉です。困難、患難は、私たちに永遠の重い栄光を生み出すプロデューサーです。

サマリヤにおいて、神はピリポを通して働かれました。人間的に考えれば、サマリヤは福音に心を開く町ではありませんでした。サマリヤ人はユダヤ人のピリポに嫌悪感を抱いたでしょうし、その町はシモンという霊能力者が人々を支配していたからです。

しかし、そのようなサマリヤで、主は多くの人々をお救いになりました。条件がそろえば伝道が進むわけではありません。困難の先で御言葉を宣べ伝え、イエス様を救い主と信じて歩み続けた人を通して聖霊の業が進んだのです。

私たちは諦めなくていい。家族、職場、自分自身を諦めなくていい。この時、サマリヤの町全体が神によって変えられたのです。それも、たった一人のキリスト者を通して。私たちもピリポと同じ聖霊をいただいたキリスト者です。聖霊が私たちを通して働いてくださいます。

エルサレムにいた使徒たちはペテロとヨハネを送り、みんなが聖霊を受けるようにと祈らせました。12使徒をサマリヤ教会にも遣わし、エルサレムもサマリヤも一つの聖霊によって建てられた一つの教会であることを確認したのでしよう。また、使徒たちの祈りを通して、サマリヤ教会の人々も自分たちを通して働いてくださる聖霊なる神を知り始めたのでしよう。

しかし、ここに「力」だけを求めた人がいました。シモンです。彼は力を得るためにお金を持ってきました。力強い働きをすることで、かつての尊敬や評判を得たかったのかもしれませんが。しかし、私たちは力を求めなくてもいい。そのためにお金や努力などの犠牲を払う必要もない。聖霊はキリスト者の内に住んで、すでに豊かに働いておられるからです。

今、望んでもいない困難の中にあるでしょうか。しかし、困難は結論ではありません。困難は働くのです。その先に命の出来事ももたらすために働きます。聖霊が、あらゆる困難の中にあって私たちを強め、命の出来事を生み出すために用いてくださいます。

(記 本庄侑子)